

# わたしたちのらわせと薦原地域づくり計画

## コモコモプラン21



ここには、さわやかな風が そよいでいます。  
ここには、清らかな流れが そいでいます。  
ここには、伸びやかな活力が あふれています。  
ここには、健やかな笑顔が 輝いています。

わたしたちは、  
ここで生まれ、ここで育ち、ここで歳を重ね、ここに未来をつなげます。

薦原地域づくり委員会

平成23年10月

## 1 — 1. はじめに

わたしたちのふるさと薦原地域は、高塚山をはじめとし四季折々に美しい姿をみせる山々を背景に、清らかな流れと潤いをもたらす名張川や、日々、大地の恵みを与えてくれる田畠やその優れた営農環境の証として生息する虫や天然記念物でもあるギフチョウなど、次世代に引き継ぎたい貴重な自然資源を有しています。

一方、名張市の北の玄関口として名阪国道へと通じる国道368号線及び市内最大規模を誇る八幡工業団地など、地域だけではなく名張市を支える重要な活力と雇用を育む要所となっています。

また、被写体としても人気のある名張川沿いの堤の桜や、国・県・市指定の文化財を有し西国薬師第三十六番霊場でもある弥勒寺など、広域的な観光・交流の要衝として地域のみならず市内外から多くの来訪者を温かくお迎えしています。

こうした地域資源に抱かれながら、その地に伝わる伝統文化や語り継がれる昔話にみられる地域行事、また、世代を超えた交流の機会となる運動会や夏祭りなどの身近な地域活動などを通じ、わたしたちは、どこか懐かしい農村集落や、新しい息吹や活力を感じる住宅地等を舞台に、自助共助の精神のもと良質な地域コミュニティ\*を育みながら暮らしています。

このように、わたしたちのふるさと薦原地域は、「暮らす」「働く」「憩う」「集う」など、わたしたちが自分らしく暮らすために必要な要素が調和し、世代を超えて誰もが暮らすことができる地域です。

「コモコモプラン21」は、先人から引き継いだこの薦原地域をわたしたちの実りある活動によってさらに魅力あるものとして、愛着と誇りをもって次世代に引き継ぐことを目指し、誰もが住み続けたい、誰もが住んでみたい、誰もがまた訪れたい、と感じることのできる地域へとまちづくりを進めるため、将来の地域の姿やわたしたちが力をあわせて取組む内容等を、概ね20年後を見据えてとりまとめた大切な計画です。

この「コモコモプラン21」を地域住民みんなの共通共有の方針として、わたしたち地域住民が役割と責任を自覚しつつ、最大限尊重すると共に地域一丸となって未来につなぐまちづくりを進めます。



\*コミュニティ：生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体

## 1－2. 薦原地域の概要

### (1) 位置及び面積など

本地域は、名張市の北西に位置し、北は伊賀市、西は奈良県と接しており、国道368号線、県道奈良名張線などが本地域を経由し、名張市における北の玄関口となっています。

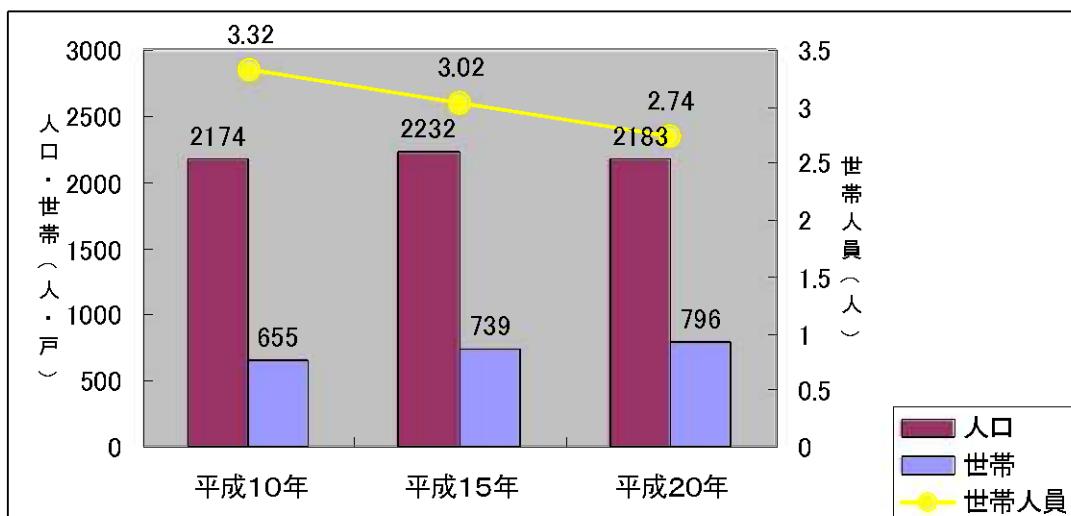
本地域の面積は、約320haで、地域の大半を山林、田園が占め、名張川と小波田川が流れるほか、古くから開けた薦生、八幡、西田原、鶴山、家野及び葛尾の農村集落と、新しい住宅地であるさつき台、市内最大の工業団地である八幡工業団地等から構成されています。



### (2) 人口及び世帯数の推移など

本地域の人口は、さつき台への入居がはじまる昭和50年代から増加傾向にありました。が、平成17年をピークに減少傾向がみられ、全国の趨勢から判断すると、この減少傾向は続くものと考えられます。

一方、世帯数はいまだ増加傾向にあり、世帯人員が減少傾向にあることから、世帯分離などによる核家族化が進行していると考えられます。



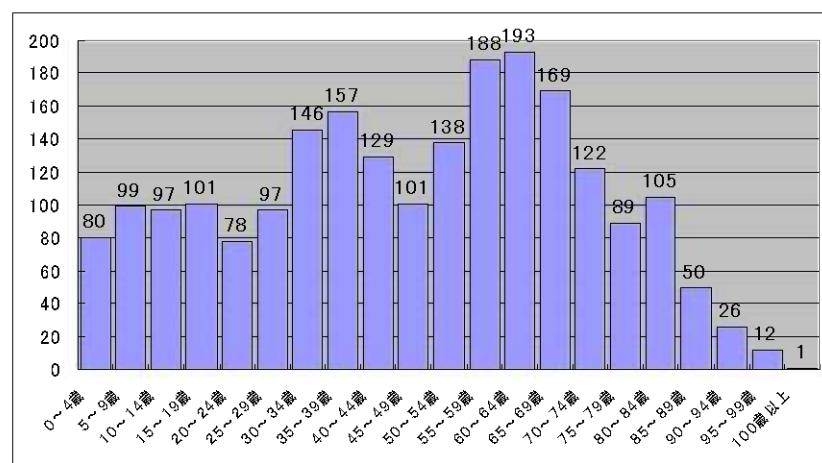
また、平成20年の65歳以上の人口は、574人で、構成比は26.4%と高い数値を示しています。

#### (参考)

名張市全体  
15歳未満人口構成比 12.5%  
15～64歳人口構成比 66.8%  
65歳以上人口構成比 20.8%

#### 薦原地域

15歳未満人口構成比 12.7%  
15～64歳人口構成比 61.0%  
65歳以上人口構成比 26.4%



### (3) 産業

#### ■農業

地域内の販売農家数は、平成17年2月1日現在で、66戸で、主な経営耕地は田となっており、名張市全体からみる経営耕地の面積の割合は、約6.9%となっています。

	計		田		畠		樹園地	
	販売農家	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
薦原地域	66	60.77	66	53.30	57	7.22	4	0.25
名張市全体	1,036	878.58	1,032	753.99	762	87.41	114	37.18

※平成17年2月1日現在 農業センサス（単位 農家数：戸 面積：ha）

また、農家人口の推移でみると、平成7年には369人いた農業従事者が、平成17年には192人となっており、特に農業専従者が半減しています。

当地域においても、高齢化、核家族化の進展や生活様式の変容など、農業の担い手不足による、耕作放棄地の発生や耕作物に対する鳥獣害など、農林業を取り巻く課題が深刻化しています。

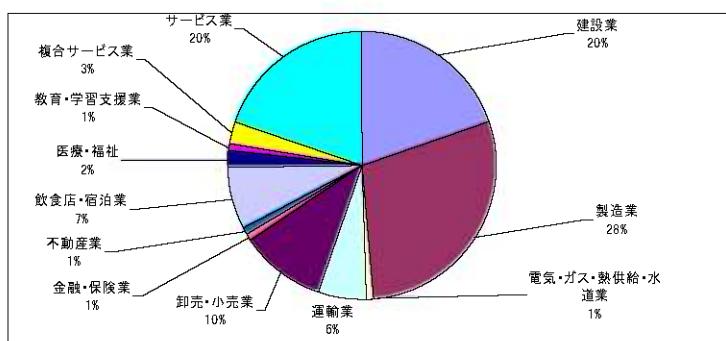
年次	農家人口			15歳以上人口									
				農業専従		兼業				兼業専従			
	世帯 人員	15歳 以上	農業 従事者	男	女	農業が主	兼業が主	男	女	男	女		
				男	女	農業	兼業	男	女	男	女		
平成 7年	649	577	369	51	89	9	3	148	69	23	36	44	105
平成 17年	294	266	192	24	43	14	18	63	30	8	18	15	33

※農業センサス（単位：人）

#### ■事業所

本地域の産業大分類別事業所数及び従業者数をみると、名張市内最大規模を誇る八幡工業団地及び国道368号沿線が事業所数、従業者数を牽引しています。

また、大規模な福祉施設の立地についても、新たな就業の場として一翼を担っています。



産業分類	事業所数	従業者数
A~C.農業、林業、漁業	—	—
D.鉱業	—	—
E.建設業	21	87
F.製造業	31	2,476
G.電気、ガス、熱供給、水道業	1	10
H.情報通信業	—	—
I.運輸業	6	255
J.卸売、小売業	11	84
K.金融、保険業	1	4
L.不動産業	1	2
M.飲食店、宿泊業	8	25
N.医療、福祉	2	135
O.教育、学習支援業	1	2
P.複合サービス業	3	9
Q.サービス業	21	141
総数	107	3,230

※平成16年6月1日現在 事業所統計調査

#### (4) 名所・文化財

地域内には、国・県・市指定の文化財を有し西国薬師第三十六番霊場でもある弥勒寺があり、多くの参拝者をお迎えしています。

また、名張川では清流に泳ぐ鮎を求める太公望で賑わい、薦原小学校の校歌の歌詞にも綴られた左岸の堤には、春には桜、秋には彼岸花が咲き乱れ、見るものの心を癒してくれています。



(名張川)

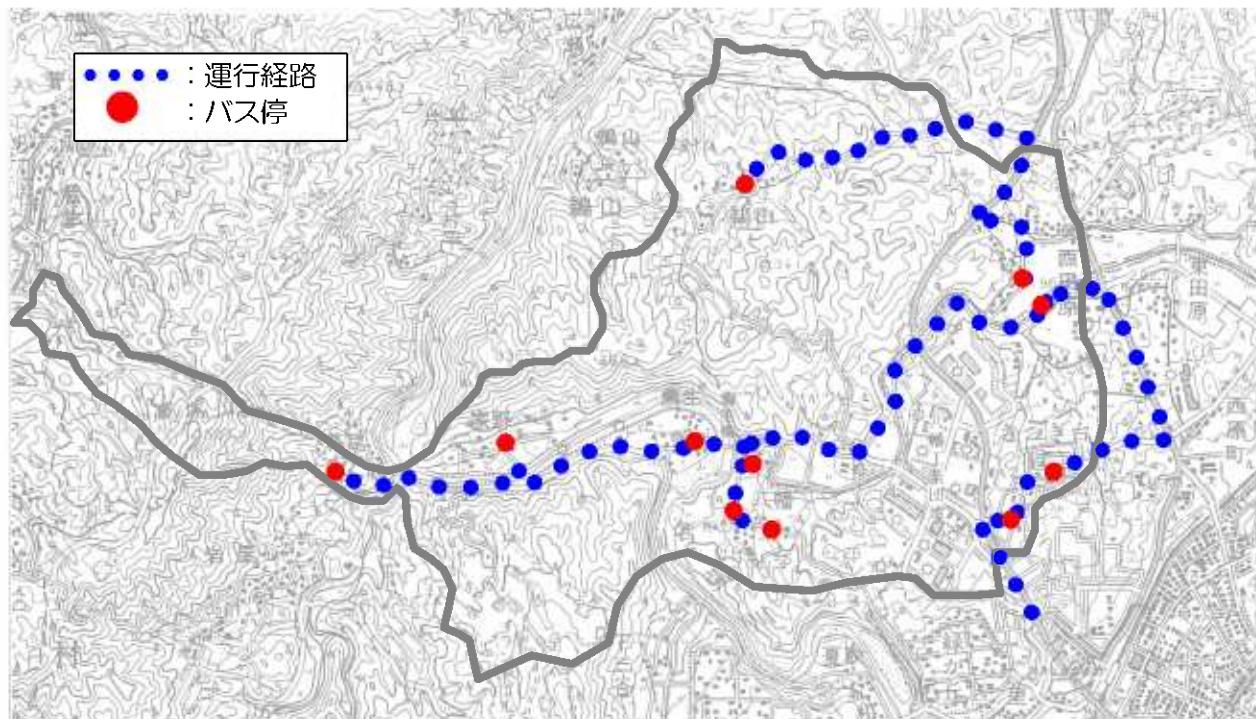


(弥勒寺)

#### (5) 交通

地域内には、薦原地域と桔梗が丘駅を結び交通空白地域の解消を図ることを目的としたコミュニティバス「コモコモ号」が運行しています。

地域が主体となり運行しているコモコモ号は、1乗車100円で、1日2~4便で運行し、地域住民の移動を支えています。



## 1—3. 薦原地域づくりアンケートの結果概要

実施時期：平成22年1月

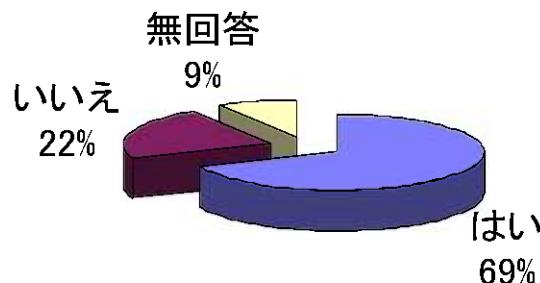
対象者：地区内世帯（1世帯1通 高校生以上）

配布数：710 有効回答数：344 回収率：約48.5%

### ○単純集計からみた地域住民の意識

#### ■薦原地域の住み心地に満足していますか？

はい	238人
いいえ	75人
無回答	31人
計	344人



ポイント

満足しているが、定住意欲は減少！

#### ■特に満足と思うことは何ですか？（上位3項目）

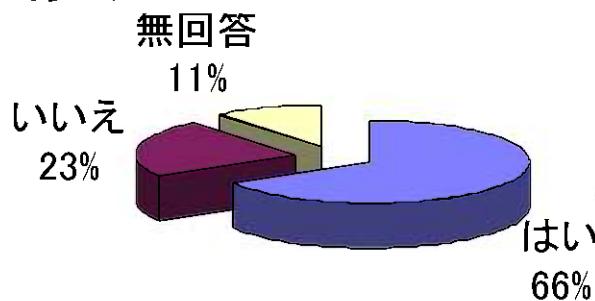
1. 自然の豊かさ（226人）
2. 治安の良さ（131人）
3. 自治会など近所づきあいがしやすい（100人）

#### ■特に不満に思うことは何ですか？（上位3項目）

1. 公共交通が不便（200人）
2. 歩道や街灯などまちの環境が十分でない（139人）
3. 近くに医療・福祉施設がない（92人）

#### ■薦原地区に住み続けたいですか？

はい	228人
いいえ	78人
無回答	38人
計	344人



#### ■住み続けたいと思う理由は何ですか？（上位3項目）

1. 災害に強く、犯罪や事故の少ない安心・安全なまちだから（120人）
2. 森や川、公園など自然いっぱいのまちだから（113人）
3. みんなで支えあう地域コミュニティの活発なまちだから（52人）

#### ■ずっと住み続けたいと思えるまち（将来の薦原地域）は、どのようなまちですか？（上位3項目）

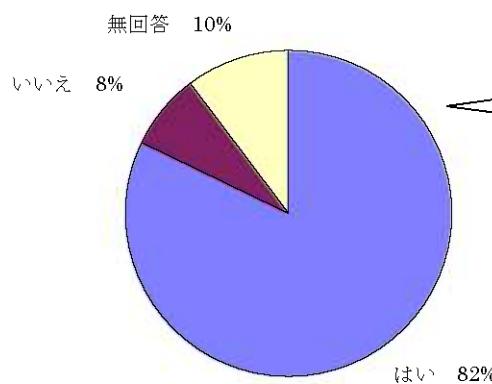
1. 高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち（124人）
2. 災害に強く、犯罪や事故の少ない安心・安全なまち（116人）
3. 道路や公共交通などの利便性の高いまち（85人）

ポイント

過不足が見え隠れしています。

■住みよいまちづくりのために、住民ができると思うことはありますか？

はい	283 人
いいえ	26 人
無回答	35 人
計	344 人



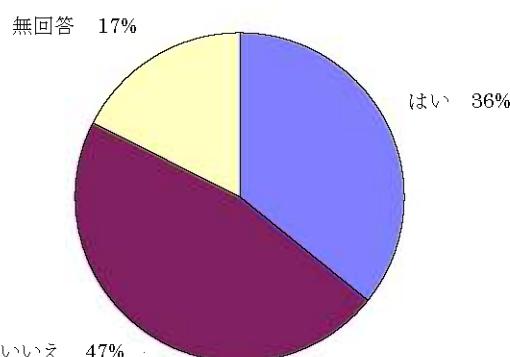
ポイント  
まちづくりを進め  
る好期かも！

■住民にできることはどのようなことだとお考えですか？（上位3項目）

1. 市民が互いに協力し、地域を美しくすること（198 人）
2. 地域で困っている人を地域が支えあうこと（164 人）
3. 自分でできることは自分でするという気持を持って行動すること（155 人）

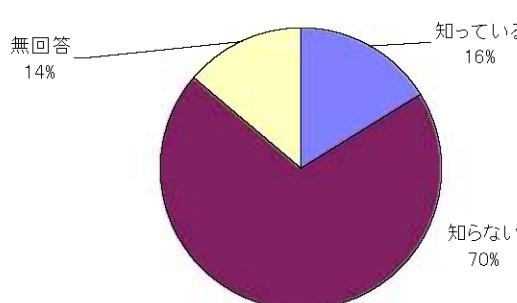
■薦原地域づくり委員会がどのような活動をしているか知っていますか？

はい	123 人
いいえ	161 人
無回答	60 人
計	344 人



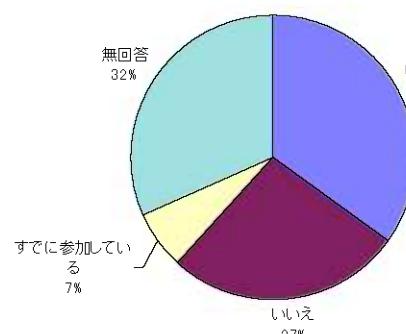
■薦原地域づくり委員会は、ゆめづくり交付金（市からの交付金）をもとに活動していますが、どのように使われているか知っていますか？

知っている	55 人
知らない	241 人
無回答	48 人
計	344 人



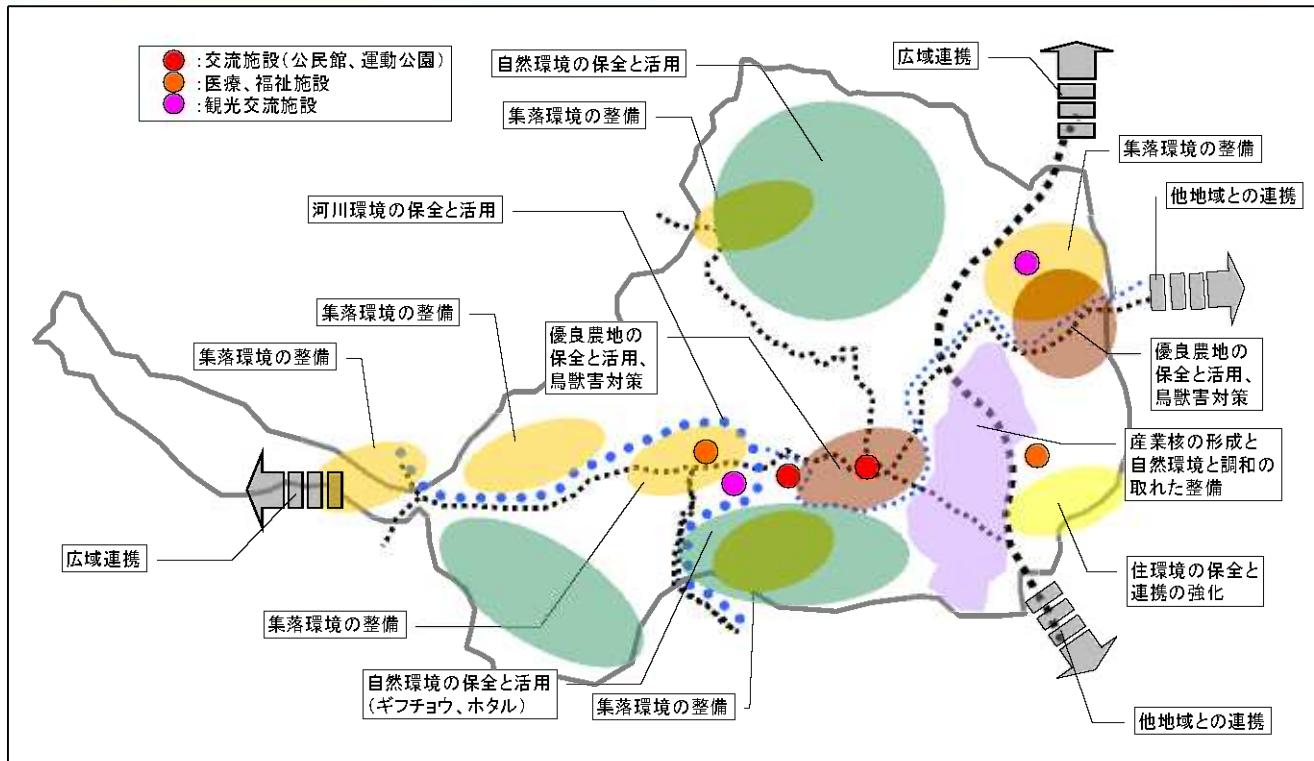
■将来、地域づくり活動に自分の経験や技能を生かしてみたいと思いますか？

はい	120 人
いいえ	92 人
すでに参加している	23 人
無回答	109 人
計	344 人



ポイント  
活動をもっとアピ  
ールすれば、みん  
なでまちづくりが  
可能かも！

## 2. 薦原地域の課題



### ○包括的な課題

#### 1) 人口減少及び高齢化等を見据えた持続可能な地域づくり

少子高齢化に伴う人口減少が進みつつあり、農業分野や地域活動においても担い手の不足などが深刻な課題となっています。こうしたなか、現在、求められる価値観も、量から質へ、成長から成熟へと転換されつつあります。地域づくりにおいても、これまでの拡大・成長志向や「無いものねだり」の観点ではなく、「有るものづかい」の観点から、既存の歴史や文化などの地域資源や、地域づくりに積極的に携わる人的資源を活かした生涯現役・全員参画により足腰の強い持続可能な地域づくりを進めることが必要です。

また、地域内交流をはじめとして、他地域や伊賀市、奈良県など隣接地域との連携・交流など広域的な連携を視野に入れた取組みが求められています。

#### 2) 自然資源の保全及び自然環境と調和のとれた活力の創造

本地域には、豊かな緑や名張川などが織りなす美しい景観があり、天然記念物でもあるギフチョウが生息するなど、次世代に引き継ぎたい貴重な自然資源を有していますが、一方で、担い手不足による耕作放棄地や、森林、里山、河川環境の荒廃など適切な維持管理が困難な状況にあります。

また、市内最大規模を誇る工業団地や広域連携の重要な軸である国道368号など、地域のみならず市内の活力を支える社会基盤が整備されつつありますが、地域の日常を支える生活道路等においても地域交流や安全性の確保、定住促進といった観点からの整備が必要となっています。

今後も、無秩序な開発を抑制し、こうした保全すべき自然環境と調和のとれた土地利用や基盤整備を推進し、自然の持つ多様な機能を活用したふれあいの場や水辺空間の創出をはじめ、地域内外の交流機会の増大を図る必要があります。

### ③. 計画の期間

基本理念、将来地域像は概ね20年後を見据え、取りまとめた計画です。

### ④. 基本理念（わたしたちの思い）薦原ism

ここには、さわやかな風が そよいでいます。  
ここには、清らかな流れが そよいでいます。  
ここには、伸びやかな活力が あふれています。  
ここには、健やかな笑顔が 輝いています。

地域民憲章にあたる  
内容を想定＝不变的な  
ものとして取り扱う  
想定です

わたしたちは、ここで生まれ、ここで育ち、ここで歳を重ね、ここに未来をつなげます。

**こ**

**こちよい暮らしを実現します ~みんなの「ふるさと」とすること~**

誰もが暮らし続けたいと感じる魅力ある「ふるさと」にすることを目的として、世代や性別、居住地、生活様式を問わず、人生の舞台として自分らしく暮らすことのできる、心地よい暮らしを、共助の精神で実現できる地域を目指します。

**も**

**てなしの心で迎えます ~ふれあい・交流を大切にすること~**

新たに地域に転入される人、余暇活動などで地域に訪れる人、就業の場として訪れる人、また地域イベントや活動に参加される地域内外の人々を、ふるさとの一員として温かいもてなしの心で迎える地域を目指します。

**は**

**ぐくむ思いを共有します ~持続可能なまちづくりを目指すこと~**

新しい地域の産業や文化の創出に向け、積極的な取組みを継続し薦原文化を育むと共に、地域の宝である子どもや、次の時代のまちづくりの担い手となる若者等を地域全体で育む思いを共有できる地域を目指します。

**ら**

**しさを大切にします ~地域、個人の個性を活かすこと~**

先人から引き継いだ貴重な自然や歴史文化などの地域資源だけではなく、郷土愛に満ちた地域住民の個性を活かし、薦原らしさを大切にした地域を目指します。

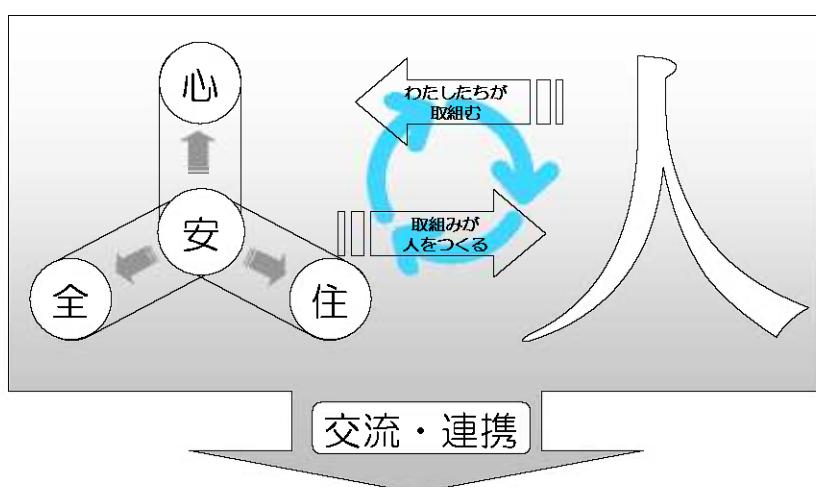
## 5—1. 将来地域像

### 「やすらぎのふるさと薦原」 ～わたしたちのきずなでつむぐ、安心・安全・安住の里づくり～

薦原地域づくりアンケートの結果において、「ずっと住み続けたいと思えるまち（将来の薦原地域）は、どのようなまちですか？」の問い合わせに対して、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」「災害に強く、犯罪や事故の少ない安心・安全なまち」「道路や公共交通などの利便性の高いまち」が上位3項目となっています。

また、「住みよいまちづくりのために、住民ができると思うことはありますか？」の問い合わせに対しては回答者の約82%の方が、「はい」と答え、その内容は、「市民が互いに協力し、地域を美しくすること」、「地域で困っている人を地域が支えあうこと」、「自分でできることは自分でするという気持を持って行動すること」となっています。

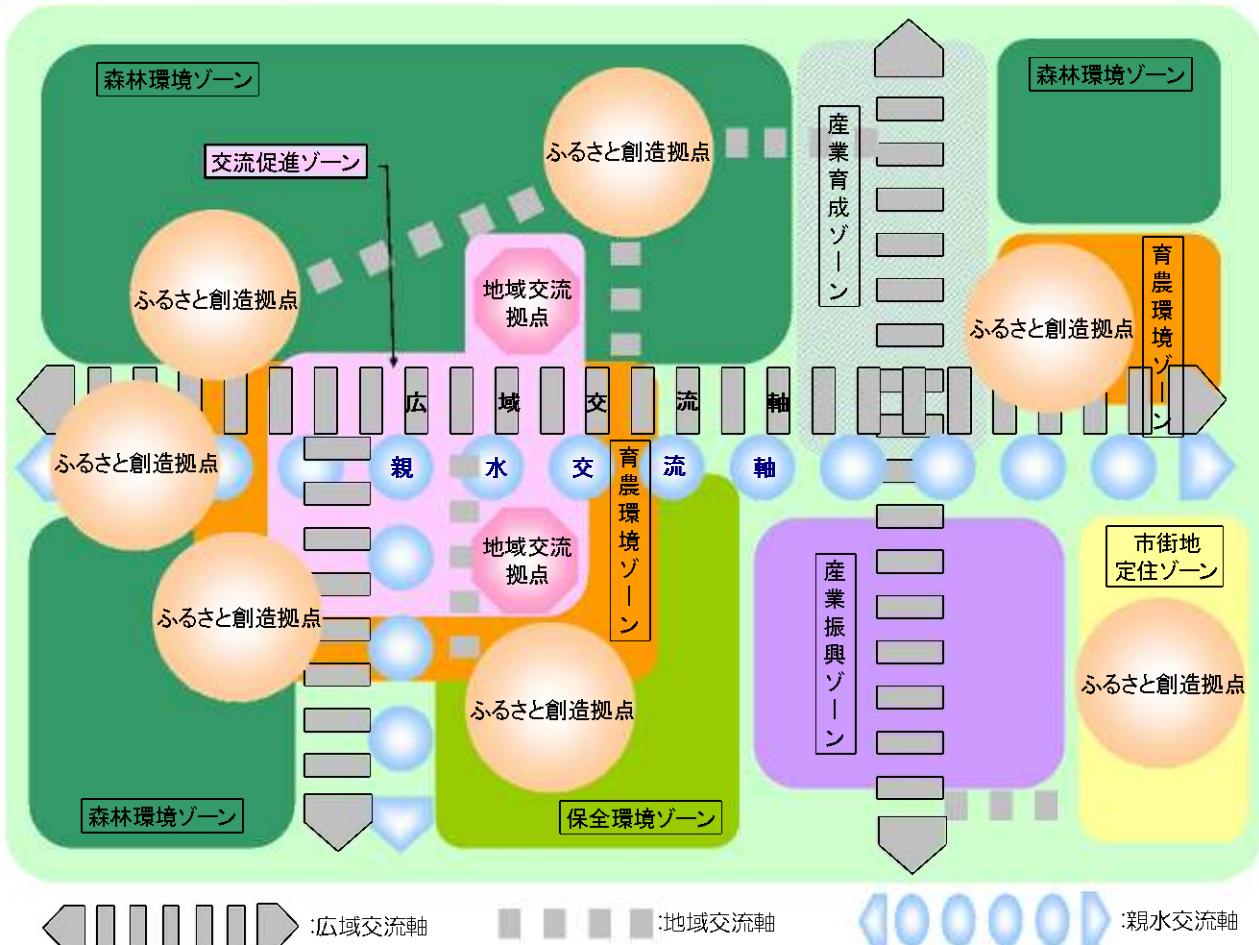
このように、先人から引き継いだ貴重な自然や歴史文化などの地域資源だけではなく、郷土愛に満ちた地域住民の力と知恵を結集し、地域住民の求める将来像から導きだした



「安らぎ」をまちづくりの中心に据え、「安心（福祉・ふれあい）」、「安全（防犯・防災）」、「安住（環境・景観）」を切り口として、それらを、わたしたちの絆で結び、さらに地域内外の交流や連携を促進し、鮮やかに紡ぐ「ひとづくり」を通じて、誰もが暮らし続けたいと感じる魅力ある「やすらぎのふるさと薦原」の創造を目指します。



## 5-2. 将来地域構造図



森林環境ゾーン*	良好な自然環境の維持・保全を図ると共に、森林環境を活かした余暇活動の舞台としての整備を図ります。
保全環境ゾーン	生態系に配慮し、蛍や天然記念物でもあるギフチョウなど、次世代に引き継ぎたい貴重な自然資源の保全を図ります。
育農環境ゾーン	まとまりのある優良農地については、地域全体の資源として保全及び農環境の整備、鳥獣害対策を図ります。
産業振興ゾーン	工業団地をはじめとする就業の場として、安全性の確保や機能強化に向けた環境整備を図ります。
産業育成ゾーン	広域アクセスに優れたゾーンではありますが、無秩序な開発を抑制し計画的な土地利用に基づき、新たな産業、交流を育成します。
交流促進ゾーン	河川環境や公民館など既存資源を活用し、地域交流を促進する取組みを進めます。
市街地定住ゾーン	地域の利便性や良質な都市的サービスを創出し定住を促す取組みを進めます。
広域交流軸	広域的な連携を担う軸として交通環境及び安全性の向上に取り組みます。
地域交流軸	地域間の円滑な移動を確保し、地域交流の促進に取り組みます。
親水交流軸	水辺空間を活かした、交流促進及び環境保全に取り組みます。
ふるさと創造拠点	緑豊かな良好な居住環境の創出に向けた取組みを進めます。
地域交流拠点	誰もが気軽に集い、学び、憩う地域の拠点として取組みを進めます。

\* ゾーン：地帯。区域。範囲。

## 6. パッケージングプロジェクト

将来地域像である、「やすらぎのふるさと薦原」の実現に向けては、わたしたち地域住民が、基本理念や地域課題について共通の認識をもって、一丸となって取組む必要があります。

しかしながら、今後、予想されている少子高齢化に伴う人口減少など地域を取り巻く社会状況などから、多岐に渡る事業や取組みについて、「あれもこれも」といった視点で全ての事業を同時に実施することは困難であり、今後は優先的に進めることでより効果的な事業や取組みについてある程度の取捨選択を行う「あれかこれか」の視点が必要となっています。

したがって、地域が抱える課題解決に向けて、今後、当地域で予定されている基盤整備や、アンケートに寄せられた意見などを踏まえつつ、包括的に取組むことで相乗的に効果を発揮する取組みなどについて整理を行い、概ね10カ年の戦略となるパッケージングプロジェクト\*として取りまとめます。なお、概ね5カ年ごとに戦略等、取組みを評価・検証を行い、必要に応じて見直しを行います。

### 基本理念 【わたしたちの思い】

- ・ 地域課題  
(包括的課題、地域アンケートなど)
- ・ 地域民の意向  
(地域アンケートなど)
- ・ 予定されている事業  
(地域アンケート、公共事業など)

### ○将来地域像

#### 【やすらぎのふるさと薦原】

- ・ こころをつなぐ安心な地域づくり
- ・ 全員参加による安全な地域づくり
- ・ 住環境の質を高める地域づくり

### ○将来地域構造図

## 実現に向けた パッケージングプロジェクト

\*パッケージングプロジェクト：複数の物が詰め合わされている、ひとまとめにされている計画事業

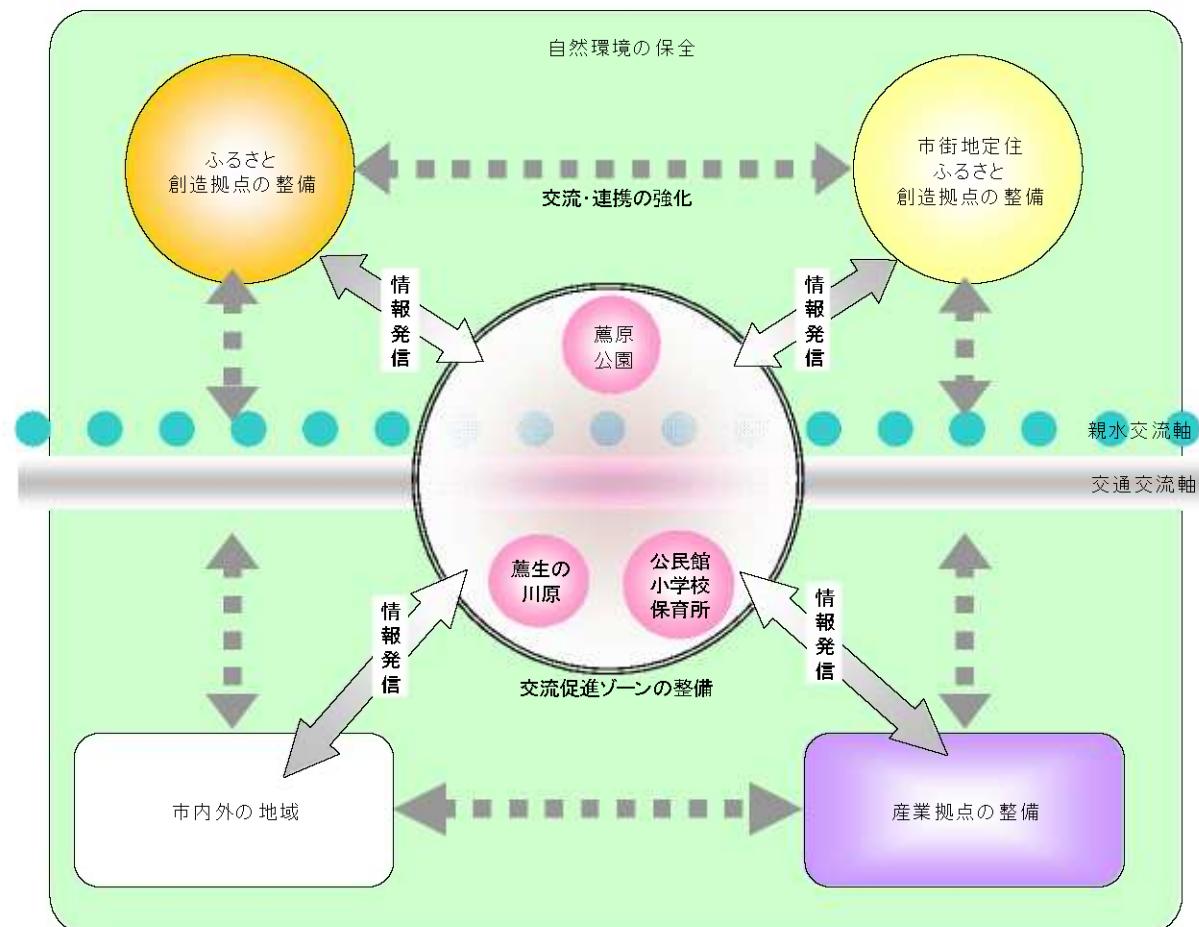
## 実現に向けたパッケージングプロジェクト

7つの地域（薦生、八幡、西田原、鶴山、家野、葛尾、さつき台）と、  
2つの思い（交流・共助）を、  
「知ろう」、「つなごう」、「共有」しよう。

### コモコモ知る9ロードプロジェクト※

当地域において大きな役割を果たす主要幹線道（国道368号、奈良名張線、上笠間八幡名張線、山添桔梗が丘線、伊賀広域農道など）や河川（名張川、小波田川）などは、地域内外との連携や交流を促進する重要な「軸」となります。

この「軸（線、道路、つながり）」を中心とした取組みを推進することで、地域内7地区の特性や役割について再発見、再確認し、先人から引き継いだ自然や伝統文化、地域行事、生活様式を互いに認め尊重しながら、地区間の交流促進や適切な役割分担による共助のこころを育み、地域内の各地区を有機的に連携し、将来地域像である「やすらぎのふるさと薦原」の実現を目指します。



\* コモコモシルクロードプロジェクト：中央アジアを横断する古代の東西交通路であるシルクロードにちなみ、地域づくりにおいて、単なる道路整備だけではなく情報や文化の交流促進を目指すための考え方を表現した造語。

## 1. 地域内幹線道路の機能向上に向けて

地域内を経由する国道、県道及び主要市道は、通勤、通学などわたしたちの生活を支えるとともに、奈良県、伊賀市、他地域との交流を促進する役割を担う大切な路線です。

くわえて、これらの路線は日常の人々の移動や物流だけではなく、災害時や緊急時における生命線ともなる重要な社会基盤であり、代替性やリダンダンシー<sup>\*</sup>の観点からの整備が必要となっています。

こうした広域的な連携や地域内移動を円滑なものとし、適切な維持管理の推進などを通じて地域内外のつながりや交流を促進することで、

わたしたちの生活をより便利で安全・快適なものにするため以下の取組みを進めます。

□県道上笠間八幡名張線をはじめとする、地域内幹線道路の早期整備に対する要望活動

□拡幅に伴う環境整備の検討に向けた取組み

- ・廃棄物不法投棄などへの環境対策検討
- ・通学路の安全確保に向けた検討

薦原地域づくりアンケートに寄せられた提案及び薦原小学校児童が絵画に込めた思い

- ・路面状態が悪いので道路補修
- ・家野橋の架け替え



\*リダンダンシー：余裕や冗長性を意味し、交通ネットワークにおいては自然災害等が発生し、一部区間が途絶しても全体の機能不全にはならないよう交通ネットワークの多重化を行なうことを指す。

## 2. 名張川親水空間の創造に向けて

清らかな流れと潤いをもたらす名張川では清流に泳ぐ鮎を求める太公望で賑わい、薦原小学校の校歌の歌詞にも綴られた左岸の堤には、春には桜、秋には彼岸花が咲き乱れ、見るものの心を癒してくれています。

一方で、堤の桜の老朽化や生い茂る雑草など、適切な維持管理が行き届かないことにより、快適な親水空間が損なわれると共に、火災時における水利の確保等に支障をきたすおそれがある現状です。

このかけがえのない地域の資源である名張川をはじめとする親水空間の整備を通じ、わたしたちの生活をより潤いのある健やかなものにするため以下の取組みを進めます。

### □名張川環境整備に向けた取組み

- ・地域による日常管理の検討（名張川、小波田川大掃除作戦など）
- ・堤の桜保存、増植の検討
- ・アユのつかみ取りなど交流イベントの実施
- ・お魚ステーションなど親水空間整備の検討
- ・河川環境学習の推進（ホタル狩りなど）

### 薦原地域づくりアンケートに寄せられた提案及び薦原小学校児童が絵画に込めた思い

- ・薦生の川原でバーベキューができる施設
- ・川辺まで近づける遊歩道と川の環境整備



### 3. 薦原公園周辺の拠点性向上に向けて

薦原公園及びその周辺は、地域のほぼ中心に位置し、各地区からのアクセス性に優れているほか、地域内唯一のテニスコートや公衆トイレなどが設置された多機能公園であり、ホタルの生息地や多くの就業者を抱える八幡工業団地などからも近く、多くの人々が集うことの条件を兼ね備えたエリアです。

この薦原公園及び周辺を、もっと身近に、もっと気軽に多くの方々が利用できる地域の交流拠点としての魅力を高める活動を展開し、

わたしたちの生活をより健康で活力あるものにするため以下の取組みを進めます。

#### □薦原公園の利用促進に向けた取組み

- ・地域による日常管理の検討
- ・公園遊具及び公園周辺環境向上の検討
- ・薦原公園ネーミングライツ※など地域外への情報発信及び収益事業の検討
- ・工業団地就業者対象の夕市など、地産地消交流イベントの実施

#### 薦原地域づくりアンケートに寄せられた提案及び薦原小学校児童が絵画に込めた思い

- ・薦原公園の整備(芝生の整備、児童遊具、ベンチの整備)
- ・公園をきれいにして人が集まる場所に。
- ・子どもが安全に遊べる公園に
- ・ドックラン\*



\* ネーミングライツ：スポーツ施設などの名称を付ける権利。施設所有者が企業などに売る。命名権。

\* ドックラン：飼い犬を自由に運動させられる、専用の広場。

## 4. 地域資源の育成に向けて

薦原地域は、豊かな緑や名張川の清流など、天然記念物でもあるギフチョウが生息する貴重な自然環境を有しています。また、各地区の獅子舞やどんど焼きといった伝統行事や、鶴山地区の「おこない」、八幡地区の「弓引き」、家野地区の「ひのもんたち」など、地区的いわれや歴史に息づいた特徴ある行事が引き継がれています。

しかしながら、高齢化や人口減少に伴う担い手不足や生活様式の変容によって、耕作放棄地の発生や、森林、里山、河川環境の荒廃など適切な維持管理が困難な状況にあることに加え、伝統行事の継承についても懸念されています。

こうした地域の資源を見つめなおし、郷土愛を育むとともに次世代に継承することで、  
わたしたちの生活をより誇りに満ちた満足感のあるものにするため以下の取組みを進めます。

### □ギフチョウ保護に向けた取組み

- ・環境学習の推進
- ・ギフチョウネットワークの検討

### □里山再生に向けた取組み

- ・鳥獣害対策の促進
- ・耕作放棄地対策（市民農園、景観植物による有効活用など）の検討
- ・地産地消を促進する取組の検討
- ・新しい担い手（援農ボランティアなど、環境ボランティアなど）育成の検討

### □地区活動支援に向けた取組み

- ・各地区活動への活動支援の実施
- ・地区行事の情報発信の推進

薦原地域づくりアンケートに寄せられた提案及び薦原小学校児童が絵画に込めた思い

- ・八幡地区の弓引き及び青年団による祭りの獅子舞
- ・鶴山福龍寺修正会行事
- ・林道をきれいにして遊歩道に
- ・山林などの整備
- ・耕作放棄地を協力して作る（作物は自慢できる地元産）



## 5. 安心・安全ネットワークの構築に向けて

薦原地域づくりアンケートの結果において、「ずっと住み続けたいと思えるまち（将来の薦原地域）は、どのようなまちですか？」の問い合わせに対して、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」が最も支持されたように、誰もが安心・安全に暮らせることが、この地域をふるさととして住み続けていただく欠かせない要素です。

また、地域内の地形条件から急傾斜地や河川などにおいて危険な場所も多く、平時は美しい風景を醸成する地域資源も地震、風水害などの災害時には予期せぬ被害をもたらすおそれもあります。今後も、既存資源を活かしつつ、避難所となっている施設の耐震化に向けた要望や、個人単位で取組み可能な減災に向けた取組みについて、地域が一丸となって人と人のつながりや助け合いの精神など質の高い社会関係資本により、こころをつなぐネットワークを構築し、

わたしたちの生活をより温かく安らかなものにするため以下の取組みを進めます。

### □防災対策の推進に向けた取組み

- ・急傾斜地、河川、ため池等の危険箇所への崩落、防落対策の促進
- ・地域防災組織の整備
- ・防災、危険箇所マップの作成
- ・減災に向けた取組みの促進
- ・各種団体への活動支援の推進
- ・地区避難所の防災対策

### □コモコモ号の利用促進に向けた取組み

- ・コモコモ号関連行事の検討
- ・運行形態の見直し検討

### □健康・福祉サービス事業の推進に向けた取組み

- ・配食サービスの実施
- ・こもはらカフェの拡充
- ・まちの保健室の利用促進
- ・有償ボランティア制度の創出

### □地域見守り活動等の推進に向けた取組み

- ・通学路の安全性、快適性の確保
- ・独居世帯への見守り活動の検討
- ・各種団体への活動支援の推進

薦原地域づくりアンケートに寄せられた提案及び薦原小学校児童が絵画に込めた思い

- ・ナック一号も乗れるように
- ・コミュニティバスの増便、経路、利用者増等の検討
- ・通勤、通学で駅まで運行するバス
- ・声を掛け合う
- ・災害対策を行う
- ・街灯の整備
- ・民生委員の方と協力して独居老人宅を定期的に訪問。
- ・ボランティア
- ・一人暮らしの家庭を地域で見守り



## 6. 地域の魅力発信の推進に向けて

薦原地域の特色のひとつに、農村、住宅地、工業団地など多様な文化、生活様式のもと、互いの特徴を尊重し合い、連携しながら地域としての一体感を醸成しています。こうした地区間の連携や、人々のつながりをもった交流を促進するためには、互いに積極的な情報発信を行い情報の共有化に努め、地域づくりや各種のイベントに参加・参画していただける機会を増やしていくことが重要です。

今後もこうした交流機会の創出に向けた地域づくりの取組みや各種イベントなどを充実すると共に、地域内に留まらず地域外の皆様への積極的な情報発信を行い、

わたしたちの生活をより楽しく魅力あるものにするため以下の取組みを進めます。

### □地域外への「こもはらブランド」発信に向けた取組み

- ・広域交流イベントの検討
- ・八幡工業団地など地域就業者との交流機会の創出
- ・二地域居住※希望者等への情報発信の検討

### □地域間交流事業の充実に向けた取組み

- ・地域資源を活かした新規イベントの検討（薦原ギネスなど）
- ・新たな担い手育成の推進

### □効果的な地域情報発進に向けた取組み

- ・薦原だよりの内容検討
- ・ホームページやブログ、メールマガジンなどの有効活用の検討

### 薦原地域づくりアンケートに寄せられた提案及び薦原小学校児童が絵画に込めた思い

- ・地域の農産物展の開催
- ・フリーマーケット
- ・コスモス祭り
- ・朝市
- ・どんど焼
- ・年末年始に餅つき等
- ・まちの保健室を積極的に活用
- ・集会所でヨガ、ピラティス等、健康サークル
- ・スポーツ教室
- ・ソフトボールチーム結成
- ・老化予防体操
- ・農産物直売所
- ・天然温泉施設
- ・一日過ごせる集会所(食堂、マーケット、風呂)



\*都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすもの。